表3　人口規模別都市の犯罪動向

都市の人口規模	人口計（単位1,000人）	犯罪発生数	人口1,000人当り犯罪発生率	悪質総量	人口1,000人当り悪質量	事件1件当り悪質率
100万以上	20,803	358,039	17.21	1,511,233	72.64	4.22
50万以上100万未満	5,725	90,134	15.74	381,225	66.59	4.23
30〃～50〃	12,257	160,663	13.11	672,212	54.84	4.18
20〃～30〃	9,423	116,870	12.40	489,086	51.90	4.18
10〃～20〃	11,583	140,734	12.15	594,304	51.31	4.22
10万以上都市計	59,791	866,440	14.49	3,648,060	61.01	4.21
10万未満都市および郡部	51,158	367,867	7.19	1,591,681	31.11	4.32
全国	110,949	1,234,307	11.12	5,239,741	47.23	4.25

び犯罪の悪質性の検討　科警研報告防犯少年編17(2) pp. 86～90, 1976

［4］鶴見絢子　犯罪統制主体に関する人びとの意識. 岩井，所，星野編，犯罪観の研究，大成出版1979

第21回 SSOR ルポ

第21回 SSOR は，関西の大温泉地南紀白浜において，8月20日から23日までの4日間にわたって行なわれた．(日程は表1に示す)セミナー室は畳敷の大部屋であり，あぐらをかいたり足を投げ出したり，あるいは寝ころんだりして，くつろいだ状態で講演や発表を聞くことができ，SSORならではの雰囲気の中で行なわれた．

今回の大きな特色は，「特別講義」が新しく設けられたことであり，福島雅夫先生（京都大）が「非線形計画のアルゴリズムについて」，小和田正先生（名工大）が「エントロピーをめぐって」と題してそれぞれ2日間にわたって講義してくださった．ふだん，他大学の先生の講義を聞く機会はほとんどないので，今回大変興味深く聞かせていただいた．

講演では，西田俊夫先生（大阪大）が「OR雑談」，増都大）が「鎖山繁先生（京パッキング問題について」，勝田敏之先生（九州大）が「非線形フィルターの理論の基礎について」それぞれ講演してくださった．

一般発表では，各大学の学生たちの研究成果の発表が多く，最近の「卒論」「修論」「博論」の傾向がうかがえた．多少残念であったのは，企業からの参加者や発表者が少なく，応用発表があまりなかったことである．

SSORと言えば，講演や研究発表を聞くといったアカデミックなことだけでなく，その他の活動を通して，互いに交流を深める場でもある．そういった意味では，今回の開催地南紀白浜は最適であった．まず，宿のセミナーハウスは，天然温泉の大浴場があり，湯につかりながらの会話もさかんに行なわれたようである．その他，テニスコートがあり，すぐ近くに海水浴場があり，名所も何箇所かあり，発表会そっちのけで親睦を深める（遊び回る？）者もいたようである．

一方夜の部では，皆それぞれ酒を飲む，麻雀をする，歓楽街へ出かける，あるいは砂浜で花火を打ち上げるといったように，昼間以上に活動的であった．なかでも酒飲み場で大スクリーンのビデオ装置付きのカラオケがあり，マイクを取り合うように美声を張り合っていた．

今回の SSOR の開催地は，周辺に魅力的なところが多く，昼間の発表会場ではかなり閑散とすることもあったが，その分お互いに交流や親睦を深め合うことができたようである．最後にこの場をかりて，今回のSSORを開催してくださった大阪大学の皆様に感謝いたします．(東京工業大学工学部経営工学科　水野眞治)

	9:00	12:00	1:00	3:00	6:00	9:00
20(水)				受付	夕食	講演
21(木)	朝食	特別講義	昼食	一般発表		懇親会
22(金)	朝食	特別講義	昼食	講演・一般発表	夕食	講演
23(土)	朝食	一般発表	昼食・解散			

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会. 無断複写・複製・転載を禁ず.